

発行所

札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX (011) 706-5007
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum-w/

編集人 田中 伸哉
発行人 浅香 正博

北大医学部同窓会新聞



CONTENTS

- (1) ・新しい年を迎えて……………浅香 正博
・年頭のご挨拶……………笠原 正典
- (2) ・名誉教授 寺沢 浩一先生を偲んで……………笠原 正典
・名誉教授 安田 寿一先生を偲んで……………筒井 裕之
・春の褒章、叙勲……………宮原 靖夫
・秋の褒章、叙勲……………黒島 晨汎
- (3) ・新世紀の医学に向けて(28)
……………石森 直樹 平野 聡
・27年度神奈川フラテ会総会
……………仁保 正和 市川 靖史
- (4) ・マッチングについて……………吉野光一郎
・総会、新入会員歓迎会のご案内
・医学部戦没同窓生追悼式のご案内
・理事懇談会・評議員会報告
- (5) ・北海道・東京における「女性医師・研修医へのサポート」に関するシンポジウムのお知らせ
・フラテ102号発行のお知らせ
・事務局からのお知らせ
- (6) ・新刊書紹介
・北海道医学会からのお知らせ
・ご逝去者
・一面の写真説明
・編集後記



「大雪の降った朝」

木佐 健悟(80期)



新しい年を迎えて

医学部同窓会会長
浅香 正博(48期)

新年おめでとうございます。冬の寒さが厳しくなってきましたが、同窓会の皆様にはお変わりございませんか。昨年は、テロ組織ISISによる邦人の誘拐、殺害というショッキングな事件で幕を開け、異常気象や火山の噴火などが続いて心配しましたが、10月に入りノーベル医学・生理学賞に大村智先生、物理学賞に梶田隆章先生の受賞が決定し、目の前が急に明るくなりました。特に医学・生理学賞に輝いた大村先生の特別な経歴と計り知れない大きさの業績に心底驚愕いたしました。大村先生の業績については、イベルメクチンという寄生虫に劇的に効果のある薬剤の開発に貢献したことが高く評価されていますが、1970年代から産学共同路線を基本として公的資金に頼らず、メルク社とのロイヤルティ契約によって、自分自身で莫大な研究資金を調達され研究を続けられたことに深い感銘を受けました。現在、わが国の研究者の多くは公的資金をどのように得るのかのみに血眼になっており、最終目標が人の役に立つことなのかを考える余裕などあり得ない状況にあります。東大、京大のような超有名大学を卒業したわけではなく、国からの支援もほと

んどないまま、信じられないくらい人類に大きな貢献を成し遂げた大村先生は、北大医学部の若い研究者の良きモデルの一人になるのではないのでしょうか。北大医学部は2019年に創立100年を迎えます。100年という区切りはきわめて大きく重いものであり、この年は、北大医学部同窓生にとって何よりも重要な年になることが予想されます。100周年記念事業の目玉として、医学部百年記念館を建設することが正式に決定いたしました。記念館の建設は北大医学部同窓会にとって長年の悲願でしたが、このたび医学部の了承を得て、実現に向けて動き出すことになりました。100周年記念行事のための寄付目標を10億円と定め、年明けにも募金活動を開始することになる予定です。同窓会会員の皆様におかれましては100年に1度の大きなイベントに是非ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。最後にありますが、北海道大学医学部同窓会会員の皆様方のご健勝を心からお祈りし、年頭のご挨拶といたします。



年頭のご挨拶

医学部長・医学研究科長
笠原 正典(56期)

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、お健やかに初春をお迎えのことと存じます。法人化後、国立大学は6年ごとに中期目標・中期計画を立て、その成果について評価を受けるようになりました。本年4月から第3期中期目標・中期計画期間が始まります。本学では、創基150年を迎える2026年に向けて「北海道大学近未来戦略150」を制定し、「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」をスローガンに第3期の活動を推進していくことになっています。医学部・医学研究科においても、これまで以上に教育・研究活動の質を高め、世界の課題解決に貢献していきたいと考えています。医学部では平成25年度に学部学生のカリキュラムを見直し、診療参加型実習を大幅に強化しました。これに伴い、大学病院のみですべての実習を行うことは困難になり、学外病院のご協力を得ることになりました。平成25年度に入学した学生がこの実習に参加するのは来年度ですが、今年中には準備万端を整える予定です。学生実習のご協力について順次お願いに上がりますので、同窓諸先生にはよろしく申し上げます。すでにお知らせしたように、来年4月

には大学院の改組が予定されています。文部科学省との折衝も順調に進んでおりますことから、計画通り医学研究科は医学研究院と医学院に改組され、新たに医学系の学院として理工学院が設置される予定です。今年は、この改組に向けて態勢を整えていくこととなります。今回の改組を機に大学院をより魅力的なものとするべく、努力したいと思います。今年は3年後に迎える医学部創立100周年に向けて、記念事業の準備が本格化する年でもあります。本紙前号において、記念事業の概要を説明させていただきましたが、医学部百年記念館の建設と教育研究基金の設立が二本柱です。百年記念館は、創立200周年まで使用できる堅牢な建物にしたいと考えております。外観のデザイン、設計図などもほぼ固まりましたので、まもなくご披露できると思います。近々、募金活動を開始いたしますので皆様のご支援をお願い申し上げます。微力ではありますが、医学部・医学研究科のさらなる発展を目指して、誠心誠意努力してまいりますので、本年もご支援のほど、お願い申し上げます。新年が会員の皆様にとりまして希望に満ちた幸運な年となりますことをお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



名誉教授 寺沢 浩一先生(54期)を偲んで

医学研究科長・医学部長 **笠原 正典**(56期)

寺沢浩一先生(54期)には、膵癌のため平成27年9月4日に逝去されました。満63歳でした。本年4月に名誉教授になられた後、定年後再雇用制度により法医学分野教授として引き続き在職され、さらなるご活躍が期待されていた矢先でした。このような時期に先生を失ったことは、まことに痛恨の極みです。

寺沢先生は昭和53年に北海道大学医学部を卒業された後、直ちに法医学講座の

門を叩き、大学院生として錫谷 徹教授に師事されました。昭和56年には北海道大学助手に任用され、その後、講師、助教授を経て、平成4年1月に第6代目の法医学講座教授に就任されました。以来、法医学講座(大学院重点化後は法医学分野)の教授として、法医学の教育・研究に従事された他、法医解剖を通じて死因究明に尽力されました。先生は法医学の社会的責任を重視され、法医解剖には特

に力を注いでおられました。法医診断学をご専門とされ、研究面では外因性異常所見の発生機序に関して幾多の先駆的業績を挙げられました。学会活動にも熱心に取り組み、長年にわたり日本法医学会理事を務められた他、平成25年には会長として日本法医学会学術全国集会を開催され、我が国における法医学の発展に尽力されました。

寺沢先生は母校に対して、ひときわ強い愛情をお持ちでした。平成8年度から13年度まで本誌の編集委員長を務められたほか、北大医学部同窓会新聞縮刷版(創刊号~100号)の編集を担当されました。医学部創立90周年を記念して出版された「写真集 北大医学部九十年」も先生の

編集によるものです。同窓会では、評議員、理事を歴任され、平成24年度からは副会長の任に就いておられました。また、12年もの間、北海道医学雑誌の編集長を務め、同誌の発展に貢献されました。本務ご多忙の中、医学部と同窓会に対して賜ったこれらの真に献身的なご貢献に心から感謝の意を表したいと思ひます。

寺沢先生は一昨年来、オートプシーメーキング(死亡時画像診断)センターの開設を目指して精力的に活動されておられました。同センターが昨年8月1日付で開設されたことを、病床にあった先生にご報告できたことが、せめてもの慰めです。ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。



名誉教授 安田 寿一先生(会員2)を偲んで

循環病態内科学分野教授 **筒井 裕之**

北海道大学名誉教授 安田寿一先生は、平成27年7月24日安らかに享年88歳の生涯を閉じられました。

安田寿一先生は、昭和2年東京のお生まれで、昭和27年に東京大学医学部医学科を卒業され、同大学医学部第二内科に入局されました。昭和35年から約2年間米国オハイオ州クリーブランドクリニック研究所に留学され、高血圧の成因に関する研究に取り組みされました。昭和46年

には東京大学医学部第二内科の助教授に昇任されました。北海道大学大学院循環病態内科学(当時は北海道大学循環器内科)は、国立大学で最初の循環器病学を専門とする内科学講座として昭和48年4月に設置が認められ、発足しましたが、その初代教授として安田寿一先生が任命され、ご就任になりました。当初、第一内科、第二内科、第三内科、薬理学教室より十数名が集まり活動が開始され、

翌昭和49年からは外来・病棟における循環器診療が開始されました。全くのゼロからのスタートであり、大変なご苦労をされたことと拝察します。北海道大学にとどまらず北海道における循環器診療の礎を築かれたのは安田寿一先生であることは間違いありません。先生は心血管造影装置を始め各種診断装置の導入や診療体制の充実を図りながら、一方で精力的に臨床研究と基礎研究に取り組みされました。難治性心不全に対する血管拡張薬や利尿薬による減負荷療法に関する研究を、第5回世界心臓学会のシンポジウム「心不全の予防と管理」において「利尿薬による近代的な心不全治療」として報告されました。また、昭和54年から文部科

学省特定研究「心臓機能不全の機序」の研究班の班長をお務めになりました。さらに、昭和62年には厚生省特定疾患「特発性心筋症調査研究班」の班長に就任され、それ以降現在に至るまで心筋症に関する研究が講座の中心的研究課題となりました。平成元年に行われた第11回日本臨床薬理学会学術集会では会長を務められ、約1400名の参加者を集められました。若手医師の教育・指導にも熱心に当たられ、平成3年までの19年の在任期間で、医局員数は111名、同門会員も53名にも上り、教室を大きく発展されました。安田寿一先生が北海道大学の発展のために尽くされたご努力に改めて感謝するとともに、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

春の褒章、叙勲

旭日双光章



元清水市医師会
副会長

宮原 靖夫
(34期)

「旭日双光章受章にあたって」

第二次大戦の講和条約の前、昭和27年、ソ連(現ロシア)が北海道に上陸してくるかも知れないと、静岡の人達は噂し恐れている時代でした。

私の父が、北海道大学医学部第7期卒業の為、父の母校である北海道大学医学部に行く事が、私の子供の頃からの夢でした。

雪が残っている寒い昭和27年4月、待望の北海道大学に入学。昭和29年、医学部に進学。昭和33年、北海道大学を卒業後、静岡日赤病院でインターンを修了し、国家試験に合格。昭和35年、北海道大学第一内科に入局。昭和38年、北海道国立第一療養所を経て、昭和40年に国立静岡病院へ出向し、昭和44年

には故郷である清水市に宮原内科医院を開業しました。

開業後は昭和50年より、清水市医師会役員、県医師会役員となり、清水市公害対策委員会、清水市国民保険審議会、静岡県医療審議会委員などの公務。又、清水商業高等学校校医として45年間携わってまいりました。

叙勲の件は、これら地方医療行政に関する事で評価されたと考えております。

開業医となってからは診療以外の公務が多く、日々時間に追われながらの生活をしていましたが、今では全ての公職を止め、平凡な開業医に戻っています。そして、叙勲を受けた事は、私の人生にとって、大きな出来事でした。

これを機会に、健康の許す限り「町医者」として生きて行こうと決心している昨今です。

(※清水市…現 静岡市清水区)

秋の褒章、叙勲

瑞宝中綬章



旭川医科大学
名誉教授

黒島 晨汎
(36期)

「感謝と驚き」

同窓会の皆さん、このたび平成27年秋の叙勲の榮に浴することになり、多年にわたる恩師、先学、同学のご指導、ご支援の賜物と、深く感謝いたしております。

私は、1960年北海道大学医学部医学科36期の卒業ですが、1973年旭川医科大

学創設と同時に同大学医学部生理学第一講座の初代教授に就任、2001年に退職するまでの28年に亘り生理学の教育・研究に携わってまいりました。先日若い研修医に会って彼が旭川医科大学の36期生であることを知り、時の流れの速さに驚いた次第です。

研究においては一貫してヒト、実験動物の温度環境、特に寒冷環境への適応の代謝性、内分泌性機構の解明に力を注ぎました。体温調節のための特異的な適応性熱産生である非ふるえ熱産生のホルモン性調節因子として、従来知られている交感神経系のカテコールアミン以外に腺

ホルモン・グルカゴンが関与していることを、グルカゴンの分泌動態、グルカゴンに対する熱産生反応の促進から生体、組織、細胞などの各レベルで初めて明らかにすることができました。また、寒冷適応における特異的な非ふるえ熱産生の主要部位である褐色脂肪組織の調節要素としての一酸化窒素などの関与を解明いたしました。さらに、また非ふるえ熱産生が体温調節のみならず、ストレスへの適応に働いていること、ストレス適応と寒冷適応との間に正の交叉適応が発現することを示し、非ふるえ熱産生の場合である褐色脂肪組織が生体のエネルギー代謝

適応に広く関わることを明らかにいたしました。また1990年には西ドイツで発足した国際適応医学会に創設メンバーとして招待され、副会長に選出され国際的な立場からも学術の発展に携わることができました。さらに1996年からは日本適応医学会の設立に参画、理事、理事長として力を注ぎ、適応医学の発展に寄与することができました。これからも一部分ではありますが私も関わる事ができた適応医学分野の益々の発展と、それが人類の幸せに貢献することを祈念いたしますと同時に楽しみにいたしております。

新世紀の医学に向けて (28)

新専門医制度について 北海道大学病院 卒後臨床研修センター

副センター長
いしもり なおき
石森 直樹 (69期)



センター長
ひらの きよし
平野 聡 (64期)



平成29年度より「新専門医制度」が導入されます。正確には平成27年度に初期臨床研修を開始した研修医から新専門医制度が適応されますので、すでに新制度への移行は始まっているといっても良いかもしれません。

ご承知の様に平成26年5月、厚生労働省「専門医の在り方に関する検討会」の報告書を受けて、日本医師会・日本医学会・全国医学部長病院長会議の合議のもと、一般社団法人「日本専門医機構」が設立されました。「国民及び社会に信頼され、医療の基盤となる専門医制度を確立することによって、専門医の質を高め、もって良質かつ適切な医療を提供すること」を目的として、現在新たな仕組みづくりが急ピッチで行われています。

現行制度から新制度への具体的な変更点としては、①専門医認定機関が従来の各学会から、日本専門医機構へ一元化される(専門医資格の標準化)、②専門医資格が基本領域とサブスペシャリティー領域に整理される(専門医資格の明確化)、③プログラムにもとづいた専門研修の実施(専門研修の標準化と充実)、④診療実績を重視した資格認定

および資格継続(いわゆるペーパードライバーの排除)、に集約されます。

新専門医制度下では、基本領域の19専門医資格と、サブスペシャリティー領域の29専門医資格に整理され(右下図)、基本領域では日本専門医機構から承認を受けた専門研修プログラム整備基準が順次公表されています(<http://www.japan-senmon-i.jp/program.html>)。現在、大学病院を中心とした基幹型研修施設では、各領域毎に独自の専門研修プログラムを策定しており、日本専門医機構による審査を経て、平成28年春に公表される予定になっております。

新制度での19基本領域のうち、特に内科あるいは外科の専門医資格に関しては、サブスペシャリティー研修を中心とした現行制度とは大きく異なり、卒後3年目以降の後期臨床研修においても、内科あるいは外科でのすべてのサブスペシャリティーを含む横断的ジェネラル研修を行うことが資格取得の前提とされ、新制度への移行において最も影響の大きい専攻領域といわれています。

当院ではこれらの状況を踏まえて早い段階より、内科および外科「専門研

修プログラム管理委員会」が組織され、内科系診療科7科および外科系診療科4科がそれぞれ集まって知恵を出し合い、後期研修医の皆さんが安心して質の高い研修を受けていただける様な研修体制の構築に努めるとともに、リサーチマインドの涵養など北海道大学病院としてのアイデンティティを兼ね備えた専門研修プログラムの開発を進めております。

このように、これまで以上に関連研修施設との密接な連携が求められている状況になってきております。同窓会

の先生方におかれましては、新専門医制度への移行に伴う専門医や指導医資格の維持更新、研修施設における研修プログラム改訂に関する対応など、ご苦労が絶えない状況になることと思われれますが、新専門医制度関連の最新情報を当センターホームページにおいて発信するなど(<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/sotsugo/>)、基幹施設としての役割を十分に認識し、当院を中心とした研修体制の整備にさらに努めてまいる所存でございますので、ご指導・ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

新専門医制度(2017年～)			
サブスペシャリティー領域	<ul style="list-style-type: none"> 消化器病専門医 循環器専門医 呼吸器専門医 血液専門医 内分泌代謝科専門医 糖尿病専門医 腎臓専門医 肝臓専門医 	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー専門医 感染症専門医 老年病専門医 神経内科専門医 消化器外科専門医 呼吸器外科専門医 心臓血管外科専門医 小児外科専門医 	<ul style="list-style-type: none"> リウマチ専門医 小児循環器専門医 小児神経専門医 小児血液がん専門医 周産期専門医 婦人科腫瘍専門医 生殖医療専門医 頭頸部がん専門医
基本領域	<ul style="list-style-type: none"> 総合内科専門医 小児科専門医 皮膚科専門医 精神科専門医 外科専門医 	<ul style="list-style-type: none"> 整形外科専門医 産婦人科専門医 眼科専門医 耳鼻咽喉科専門医 泌尿器科専門医 	<ul style="list-style-type: none"> 脳神経外科専門医 放射線科専門医 麻酔科専門医 病理専門医 臨床検査専門医
			29領域
			19領域

27年度神奈川フラテ会総会

—“絆”の感動が寮歌斉唱を忘れさせた総会の報告

にほ まさかず 仁保 正和(43期) いちかわ やすふみ 市川 靖史(62期)

神奈川フラテ会は同窓会活動の方針として“絆”を探ること、学生の参加を歓迎することを掲げている。後者の理由は神奈川の第一線で活躍している同窓に会う機会を与えて彼らの進路の参考にってもらうためだ。昨年7月25日に開催された総会は研修生1名と学生5名の参加を得たので会は70年に及ぶ年次の同窓が集う会になった。寮歌斉唱を初めて忘れた会でもあったが、それは強い“絆”を全員が感じる事ができた感動があったからだ。

学生のひとは「偉い先生が受付をしていたので驚いた」という感想を述べていた。当日の受付は横浜市立大教授の市川靖史、折館伸彦であり、以前は元県立がんセンター院長の武宮省治と横浜市立大准教授の古屋充子だった。彼らは受付をすすんで引き受けてくれたが、このことはこの会が手づくりの会であることをよく表している。学生はそれを敏感に嗅ぎ取ってくれたのだ。恒例の学術講演は北里大名誉教授、川上正也先生と北里大小児外科学教授、田中潔先生にお願いした。お二人の講演は何れも感銘深いものだった。

川上正也先生のご講演(座長 松浦幹夫先生)、「心のアンチエイジング」は「太古、宇宙は暗黒だった。ビッグバンが起こり…」から始まって「生物

の進化」が続き最後に「心のアンチエイジング」に辿り着く壮大なお話だった。大きな規模のしかし緻密な構成のご講演だったので先生の健在と気宇壮大な雰囲気を知ることができた。

田中潔先生の講演(座長 市川)、「小児外科 あれこれ」は一昨年の会の時の彼の挨拶で小児外科一筋に歩んできたという経歴を聞いてお願いしたものだ。小児外科学の講座は私の学生時代にはなかったし、その後も知識を得る機会がないまま過ごしてきた私にとって内容は想像を絶するものだった。守備範囲という胎児への手術や新生児を含めた小児の消化器、呼吸器、泌尿器などの奇形と癌の手術と治療の講演は正に医学の進歩を眼にするものであり、パイオニアの自負をも見るものだった。彼は医療機器や材料の進歩が可能にしたところが大きいと話したが、先ず必要だったものは心、失敗を恐れぬ不屈の心とパイオニアスピリッツだっただろう。この分野に同窓が取り組んでいることは我々の誇りといえると思う。講演でさらに感激したことは患者さんとの間の“絆”、「手術を受けたひとたちは生涯主治医に掛かることを希望する」と語っておられたことだ。それは患者さんに主治医以外には彼らの身体のこと

に自分の身体は主治医以外には診せたくないという心があるからだ。

最後に一昨年出席した笠井悠太郎君の紹介で研修生と学生が出席したこと、学生から「こういう会ならば来年も出席したい」ということばがあったこととこれまで恒例として歌われていた“都ぞ弥生”の斉唱を全員が忘れる程の“絆”の感動があったことを報告したい。

今年の会も7月に開催されるので多数の同窓の参加を世話人一同お待ちします。

出席者(29名) 川上29 露木34 松浦39 武宮、仁保43、手島52、山下56、岩淵、国兼58、木下、力石、田中、中江、中村60、市川62、折館、廣瀬64、麻薙65、古屋67、小西78、島84、百瀬88、良川90、小西92、斎藤、志藤93、笠井95、藤井97、小関(税理士)

世話人 仁保、武宮、市川、国兼、力石、折館、古屋、前田 (文責 仁保)



マッチングについて



よしの こういちろう
吉野 光一郎
(第6学年)

マッチングとは『医師免許を得て臨床研修を受けようとする者(研修希望者)と、臨床研修を行う病院(研修病院)の研修プログラムとを研修希望者及び研修病院の希望を踏まえて、一定の規則(アルゴリズム)に従って、コンピュータにより組み合わせを決定するシステムで

ある。』とマッチング協会のホームページにはあります。マッチングに備えた医学生活動を私の経験を元にご紹介したいと思います。

まず病院の情報収集です。CBT(Computer Based Testing)やOSCE(Objective Structured Clinical Examination)が終わってポリクリが始まる前の5年の春休みに、全国の病院説明会に行きました。次に病院見学です。ポリクリの合間を縫って東京と水戸の病院へ行きました。水戸の病院は総合診療に力を入れており、大学にはない

内容に興味を持ちました。6年の選択実習は腫瘍内科と消化器内科を選択して各6週間ずつ実習しました。そこで、消化器内科の先生ご推薦の函館の病院に見学に行きました。ここは人気病院の一つで、救急と消化器内科が魅力的でした。見学の後は各病院の試験を受験します。概ね3,4個の病院を見学し、2,3個の病院を受験します。

私は道内2つ、水戸1つの3つの病院を受験することにしました。まず困るのが履歴書作りです。志望理由、医道を志した理由、長所・短所などを書きませんが、普段選択肢の試験に慣れている我々は文章を書く力が無く、かなりの時間を要しました。試験内容は、1つ目が書類選考・面接、2つ目が書類選考・

面接・英語論文読解・小論文(少子化について)、3つ目が書類選考・面接・小論文(初期研修の抱負)、診察実技試験(患者の主訴だけを聞き、身体診察のみを行い鑑別診断を挙げる形式)でした。

9月に希望順位をマッチング協会に提出し、10月下旬に結果がインターネット上で発表されます。発表後はマッチ先と仮契約をし、国試の合格発表後に正式契約となります。

マッチングは医学生にとって初めての就職活動であり、自分を表出する数少ない機会です。足かけ2年弱に及ぶ自分と向き合う時間は、これからの長い医師人生にとって大きな礎の一部分となると思います。

総会、新入会員歓迎会のご案内

同窓会総会

平成27年度定時総会を下記のとおり開催しますので、ご出席くださるようご案内いたします。

日 時：平成28年2月8日(月)

午後6時より

会 場：札幌パークホテル 高砂(3階)

所在地：札幌市中央区南10条西3丁目

電 話：011-511-3131

議事

1. 協議事項(予定)

(1)平成26年度会計決算報告

(2)平成26年度会計監査報告

(3)その他

2. 報告事項(予定)

(1)庶務・事業報告

(2)平成27年度会計中間報告

(3)その他

総会終了後、平成27年度フラテ研究奨励賞授賞式を予定しています。

新入会員歓迎会

総会終了後の午後7時から、同ホテル(1階)ザ・テラスルームにおいて、第92期新入会員歓迎会を開催します。参加費は無料です。

多くの先輩会員のご参加をお待ちしています。

ご参加いただける方は、電話又はメールにより1月29日(金)までに同窓会事務局へご連絡ください。

同窓会費納入のお願い

同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

同窓会費の納入方法は、①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかです。

同窓会費の納入は 口座振替で

とくに①口座振替は、店頭へ出向く手間が省けます。また、納入忘れがないのでとても便利です。

口座振替を希望する方は、同窓会事務局にお申し付けください。

電話：011-706-5007

E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp

医学部戦没同窓生追悼式のご案内

先の大戦で亡くなられた医学部医学科及び医学専門部ご卒業の方々を追悼し、平和を祈念して「北海道大学医学部戦没同窓生追悼式」を挙行いたします。

多くの皆様のご参列をお願い申し上げます。

日 時：平成28年7月2日(土)

午後1時より

同窓会会長 浅香 正博

会 場：北海道大学医学部
学友会館「フラテ」

所在地：北大医学部内

(札幌市北区北15条西7丁目)

事前申し込みは不要です。

理事懇談会・評議員会報告

理事懇談会

日 時：平成27年11月27日(金)

午後6時から午後6時52分

場 所：医学研究科 中会議室

出席者：会長、副会長2名、理事3名

同席者：監事、評議員会議長、副議長

評議員会

日 時：平成27年11月27日(金)

午後7時から午後7時40分

場 所：医学研究科

学友会館「フラテ」大研修室

出席者：62名(出席：8名、委任状提出54名)

同席者：会長、副会長2名、理事4名、監事

【協議事項】

1. 現役員の体制について

本年9月4日に寺沢理事の急逝により理事が欠員となっていました。現役員の任期が平成28年3月末日までなので後任者を補充しないことが了承されました。

2. 役員候補者選考委員会の設置について

現役員の任期が平成28年3月末日で満了することから、役員候補者選考委員会に関する要項に基づき、評議員会に次期役員候補者選考委員会を設置することが了承

されました。なお、選考委員には武蔵学(51期)、鈴木康夫(59期)及び木佐健悟(80期)の各氏が指名されました。

3. 同窓会会長賞(仮称)の創設について

医学部医学科を卒業する学生を対象とする、同窓会会長賞の創設が了承されました。《概要》

・名称 北海道大学医学部同窓会会長賞

・対象 医学部長から推薦された次の一に該当する医学部医学科を卒業する学生

①学業成績の面から 学業成績が特に優秀で、かつ、人格に優れた者 3名以内

②研究活動の面から 学会、学会誌等で優れた評価を受けた者

③課外活動の面から 全国規模の競技会、コンクール等で優勝した団体の主将、または個人

④社会貢献の面から ボランティア活動、人命救助、災害救援等の社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の模範となった者

⑤その他 前4号に準ずるもので、同窓会会長賞にふさわしいと認められる者

※全国規模の競技会、コンクール等 東日本医科学学生総合体育大会、または東日本地区の大会を含む

・選考 医学部長から推薦された候補者について、会長及び副会長が選考

受賞者は原則として全体で10名以内

・授与 医学部医学科学学位記伝達式で、表彰楯を授与

4. 戦没同窓生追悼式(仮称)の実施について

先の大戦で亡くなられた医学部医学科及び医学専門部ご卒業の方々を追悼し、平和を祈念して「北海道大学医学部戦没同窓生追悼式」を挙行することが了承されました。

日 時：平成28年7月2日(土) 午後1時より

会 場：北大医学部学友会館「フラテ」

5. 新入会員歓迎会の名称について

現在の医師国家試験最終日に実施している新入会員歓迎会の名称は「新入会員(卒業生)歓迎会」と位置づけることが了承されました。

【報告事項】

1. 評議員、予備評議員の一部交代について

平成26、27年度の2年間を任期とする現評議員、予備評議員の一部交代について報告されました。

2. 平成27年度庶務、事業報告について

庶務報告として、本年度の定時総会及び新

入会員(卒業生)歓迎会を平成28年2月8日(月)に札幌パークホテルで開催することが報告されました。

事業報告として、同窓会新聞の発行状況、同窓会誌発行進捗状況が報告されました。

3. 平成27年度会計収支中間報告について

10月末日現在の会計収支状況について報告されました。

4. 平成28年度以降の会費免除について

会則第6条第2項の規定に基づき、昭和35年卒業の第36期の会員は平成28年度の会費から免除となることが報告されました。

5. 会員の個人情報の提供について

北海道大学から、卒業生アンケート実施のために会員住所データの提供要請があり、該当する会員のデータを提供したことが報告されました。

6. 医学部創立100周年について

平成31年に迎える医学部創立100周年記念事業の計画概要について報告されました。

北海道・東京における「女性医師・研修医へのサポート」に関するシンポジウムのお知らせ

第9回日本性差医学・医療学会学術集会が、平成28年1月30日(土)・31日(日)の2日間、北海道大学医学部同窓会副会長で、カレスサッポロ北光記念クリニック所長の佐久間一郎が大会長となりニューオータニイン札幌で開催される(ホームページ: <http://jagsm9.ibmd.jp/> 大会事務局:011-768-7814 株式会社ジー・プロモーション内)。

同学会は、性差に関する研究の学会であるが、「男女共同参画」も主要なテーマのひとつである。今回、北海道・東京における「女性医師・研修医へのサポート」に関するシンポジウムが、31日(日)の午後1時30分から3時30分まで後表の内容で開催される。

本シンポジウムでは、旭川医科大学皮膚科学の山本明美教授、大会副会長

の時計台病院の藤井美穂女性総合診療センター長が座長を務め、北大医学部第二内科の堀田哲也講師、皮膚科の氏家英之助教が、北大医学部・北大病院および北大皮膚科の女性医師支援への具体的取り組みを講演するほか、札幌市内の病院および東京女子医大の研修医が、実際の女性医師支援の体験を報告する。是非、女性同窓会員に聴取し

ていただきたいので、本来研修医の参加費は5,000円のところ、「北大医学部同窓会会員です」と受付で言っていただければ、参加費は無料と致します。

それ以外に、現在環境省が行っている「エコチル研究」、具体的には妊婦の胎盤血等の環境汚染物質(メチル水銀、鉛、PCB等)の濃度測定と、その妊婦から出生した児の知的発育を含めた発

育状況を年齢で測定し、環境汚染物質の影響を検索するコホート研究の中間結果を、東北地区の主任研究者である仲井邦彦東北大教授が講演する。かなりショッキングな結果であり、これから妊婦となる同窓会員、またお子さんやお孫さんが妊婦となる同窓会員に聴いていただければと存じます。

(55期 佐久間一郎)

シンポジウム2 男女共同参画

1月31日(日)13:30~15:30

女性医師等支援・大学医局の取り組み
北大皮膚科における女性医師の現状
腹腔鏡技術認定お母さんの両立奮闘自問自答
柔軟な働き方によって支えられた私のキャリア継続について
女子医大育児支援システムを研修医として利用して

座長:山本 明美
座長:藤井 美穂

堀田 哲也
氏家 英之
西田 幸代
越智(橋本) 純子
木村 景子
コメンター:名越 澄子
コメンター:鄭 忠和

旭川医科大学皮膚科学講座
時計台記念病院 女性総合診療センター
北海道大学病院 内科II
北海道大学大学院医学研究科 皮膚科
札幌医科大学医学部泌尿器科
KKR札幌医療センター斗南病院 放射線科
東京女子医科大学皮膚科
埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科
和温療法研究所

教授
センター長

講師
助教
診療医
医員
後期研修医
教授

フラテ102号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部

同窓会新聞をご覧の皆様、いつも校友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の暖かいご支援により、昨年発行の101号も大変ご好評をいただきました。

さて我々フラテ編集部では、今年度もフラテ発行に向けて準備を進めております。102号の発行は、今年3月上旬を予定しております。購読をご希望の方は、同封の振込用紙にてお支払いをお願い致します。注文および支払方法を、郵便振込みによる前払いとさせていただきます

ことにご理解をお願い致します。在校生につきましては、4月上旬にフラテを一部ずつ配布致しますので、別途お振込は必要ございません。

また、当編集部には101号以前の残部もございます。ご希望の方は、102号をお申し込みの際に、振込用紙にその旨をお書き添え下さい。別途、送らせていただきます。

なお、フラテの申し込みは10月と1月の2回のほか、101号巻末の払込用紙においても受け付けております。**すでに101号巻末の振込用紙にて申し込まれた**

方、10月の同窓会新聞に同封致しました振込用紙にて申し込まれた方は今回申し込む必要はございません。二重申し込みをなさらないようご注意ください。

また、同窓会新聞や同窓会費についてのお問い合わせは同窓会(011-706-5007)へご連絡をお願い致します。

<102号の主な内容>

- ・特集記事「震災から四年、福島は今(仮)」
- ・フラテ各地に行く～静岡編～
- ・教室便り(医学部の各教室のご紹介)
- ・学年紹介(学生の他己紹介)
- ・各講座新旧名称一覧

- ・フラテ茶苑(先生方の御寄稿文)
- ・学生の広場(学生の寄稿文)など
- ・みどりのベンチ～となりの女性医師～

※フラテ編集部へのご連絡・ご照会は下記宛にお寄せくださるよう、お願い申し上げます。

<お問い合わせ先>

フラテ編集部
TEL/FAX 011-736-1444(留守電あります)
E-mail: frate.med@gmail.com
〒060-8638
札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学医学部内 フラテ編集部

事務局からお知らせ

ご寄付の報告とお願い

同窓会事業支援のため、次のとおりご寄付をいただきました。

平成27年12月3日

28期 吉村 誠治様 金200,000円
以上、ご報告申し上げます。誠に有難うございました。

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。

寄付者のご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感謝状を贈呈させていただきます。

ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。

電話: 011-706-5007

E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp



○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。

同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

○会費納入方法

1. 口座振替

・一度手続きをするとコンビニへ行く必要がありません。希望する方は、同窓会事務局にお申し付けください。

2. コンビニ納入

・毎年6月の同窓会新聞に払込票を同封

同窓会費について

します。お近くのコンビニで納入してください。払込受領書は捨てずに保管してください。

3. 銀行振込

・北洋銀行、北海道銀行の同窓会口座に振り込む方法です。手数料はご自身の負担となります。振込受取書は捨てずに保管してください。

・振込先銀行、口座番号は「コンビニ払込票」の裏面をご確認ください。

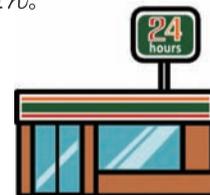
○会費未納者と刊行物の送付

・未納会費が2年を超えると、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。
・納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお届

けすることができません。

○会費免除者と刊行物の送付

・会則により、卒業後55年を経過した会員の会費は、翌年度から免除となります。
・35期は平成27年度から、36期は平成28年度の会費から免除となりますが、免除前に2年を超える未納会費があると、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。



ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では、会員のための「ドクター総合補償制度」を創設し、**随時募集**を行っています。

現在、本制度には500名近い会員の皆様が加入しており、大変ご好評をいただいています。

ドクター総合補償制度には「医師賠償責任保険(勤務医向け)」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので個人での契約に比べて割安な保険料で加入することができます。

ドクター総合補償制度につきましては、同窓会事務局にお問い合わせください。

電話: 011-706-5007

E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp

新刊書紹介



『生命の樹
—映画を旅する—』
いのうえ しょうろく
井上 勝六(43期)著
丸善プラネット
¥1,728

天と地を結ぶ象徴の「生命の樹」には、豊穡や繁栄など人々の切なる想いが込められている。(中略)。多様で不可解・不条理な存在の人間、「映画の旅」でその実相を知り、旅先での思いを綴る(本書表紙裏紹介文)。

本書では、個別の映画が旅の見聞を交え連続的に物語りのような流れで紹介される。

『シェルプールの雨傘』『ジャッカルの日』には仏植民地時代の舞台裏が、現イラン社会を写した『別離』には格差、介護など、現在の世界共通の問題が描かれ身近に感じられる。正義を唱えた米国が中東に侵攻、その実相が『フェア・

ゲーム』等に描かれた。また、著者がイラン旅行で出会ったタペストリーに見る「生命の樹」や現地青年との関わりを通してイスラム文化が述べられる。

西欧列強は近世、アフリカ、…へ、支配者として国を奪い、人間の尊厳を傷つけ、植民地経営から膨大な富を蓄積した(昨今の難民を受容し償っても罰は当たらないだろう)。そんな侵略の先兵として送られた人々は、西欧社会の食い詰め下層民だったろう。映画に描かれた人々の哀愁が胸を打つ。(その昔、パーキット調査の帰途、カサブランカに立ち寄り本書記載の宿に泊まった。30年前に上梓されていたら…)。

「映画と旅」という切り口から人間探求の旅へと、また旅先で撮った口絵写真も楽しい。

(43期 水野文雄)



『北海道大学病院の
おいしい健康ごはん』
たけだ こうじ
武田 宏司(56期)他 著
北海道新聞社
¥1,500

北海道大学病院は936ベッドを有する北海道最大級の病院である。入院患者の内訳は30診療科を超えており、常食以外の特別食のオーダーも多数あり、その献立を考えるだけでもどれほど大変なものなのかを推察できる。病院食とレストランや家庭で供される食事との大きな違いは一定のカロリー内で栄養バランスが常に考えられなければならないことである。近年の医学の進歩により、様々な病気の治療における食事療法の意義はその重要性を増している。特に生活習慣に基づく病気が多くなってきたことにより、薬剤以上に食事療法の効果についての重要性が強調されるようになってきた。日々の食事に気を遣うことは病気の治療のみならず、予防にも大きな効果が期待されている。しかしながら、これまで病院食というと栄養バランスは優れているが美味しさは二の次というイメージで

あった。

北海道大学病院の栄養管理部が一丸となって作成した本書は、カラー写真がふんだんに使われ読みやすく記載されているため、一見通常のレシピ本と間違われるほど美しく仕上がっている。最初に食事療法の基礎知識が記載され、その後、高血圧、糖尿病、高尿酸血症、脂質異常症に対する食事のレシピが詳しく述べられている。それぞれの最初の項には、武田宏司栄養管理部長の食事療法の基になっている疾患解説がわかりやすく記載されている。私が北海道大学病院院長であった時代、患者用の昼食を3年間にわたって検査させていただいたが、見た目も美しく味も十分であった。全て540kcal前後でこれだけ変化に富みおいしいものが食べられることに驚いたことを思い出す。北海道大学病院は診療面のみでなく、食事面でも大きな進歩を遂げていたのである。武田部長を中心とする北海道大学病院栄養管理部の皆さんに感謝すると共にすべての方々に本書を薦めたい。

(48期 浅香正博)

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行(5月、11月：平成28年は第91巻)
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催(10月下旬：昭和42年から

実施)

- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与(年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施)

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○会員の状況(平成27年12月15日現在)

- ・一般会員 727名(年会費 4,000円)
- ・学生会員 11名(年会費 1,000円)
- ・特別会員 76団体(年会費 25,000円)
- ・名誉会員 120名

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○北海道医学雑誌の原稿募集

- ・募集する原稿は、「原著論文」「症例報告」「総説」「速報」「学位論文」「学位論文の要旨」「BAY(Best Articles of the Year)」「研究会抄録」「談話会抄録」等です。
- ・「教室だより」「海外だより」等、論文以外の投稿も歓迎します。
- ・投稿者は北海道医学会会員であることを原則とします。
- ・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○お問い合わせ先

北海道医学会事務局
電話 011-706-5007
E-mail : digakkai@med.hokudai.ac.jp

ご逝去者

新聞152号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
平成27年			11月 3日	奥 泉 雅 弘	34
6月23日	改 田 亮	専旧6	11月 3日	坂 上 康 雄	専新6
8月10日	中 村 玄三郎	専新7	11月 8日	勝 浦 昭 光	専旧7
8月13日	仲 川 庸 夫	29	11月11日	佐々木 孝 雄	専旧7
8月14日	竹 重 正	専新7	11月11日	吉 田 碩 夫	19
10月 3日	塩 谷 透	専新7	11月13日	上 舘 貢	専旧6
10月10日	佐々木 廸 郎	36	11月18日	尾 形 昭	34
10月12日	難 波 眞木二	専3	11月18日	小田川 宏	43
10月14日	穴 口 重 郎	27	11月23日	佐 野 博 之	44
10月19日	牧野田 知	51	11月24日	成 田 吉 郎	専旧6
11月 1日	横 田 祥	55	11月26日	宍 戸 昌 夫	18
11月 2日	及 川 栄 治	33			

一面の写真説明

「大雪の降った朝」

木佐 健悟(80期)

編集後記

今月号の写真は北大の銀杏並木道の冬景色である。黄色に色づく秋の季節も美しいが、純白で鮮やかな雪景色が北大構内にはある。キュッキュッと雪を踏みしめて通った学生時代を懐かしく思い出す。喧騒から離れて学問と余暇に没頭できる北大キャンパスは誇らしい。

戦後から70年の昨年は、日本の将来を決める重要な出来事が数多くあった。

前夜大雪が降りましたが、すっきりと晴れた朝となりました。

13条門から続く銀杏並木は人通りはまばらですが、それでもしっかり除雪がされていました。夏から秋の写真をよく目にするこの通りですが、冬もまた北大らしい風景となります。

冷戦崩壊後の世界秩序の変化や新興国の経済発展によって、日本の経済や社会規範は変化しつつある。

日本の医療教育や医療制度は戦後から相変わらずである。新専門医制度の開始は医療の高度化と多様化の流れから必然であろう。ただ医師個人が専門化し過ぎ、人を診る多面的視野を失うことがないようにと願う。

(55期 山科賢児)

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。
<http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum-w/news/index.htm>

印刷所 **大日本印刷(株)** 〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号
代表(011)750-2205